

今回、私がこの研修に参加したのは、予防先進国であるスウェーデンで講義や施設見学を通して、『本当の歯科医療の哲学』を体感したかったからです。2011年のマルメ研修に院長と副院長が参加しました。その際の話聞き、いつかスウェーデンという地で学ぶことの意義を身をもって味わいたいと思い続けてきました。研修の案内が来た時には迷わず行くと決めたことを今でも覚えています。

出発直前は不安な部分もたくさんありました。しかしスウェーデンに向かう飛行機の中では次の日から始まる講義が待ち遠しく、不安から期待に変わっていました。

講義が始まるとその充実した内容に感動し、ダン・エリクソン先生をはじめとする素晴らしい先生方のお話を直接聞くことができることにうれしくなりました。講義を通して、今までの知識の再確認ができただけでなく、新たな知識の習得もたくさんできたのも大きな収穫でした。

また、ハンズオンや講義を通して特に感じたのは教育水準の高さでした。ハンズオンでは充実した設備の中で、施術のアドバイスを直接頂けたことや自身の苦手とするポイントが明確になったことは、これからの自身のスキルアップに大いに役立つと思います。日本とは違い、スウェーデンでは自らが疑問を持ち、考え、答えを導きだし、様々な知識や見解を習得していく問題解決型システムが整っています。このシステムがあるからこそ学生は知識やスキルだけでなく、口腔の健康の価値を十分に理解していくことができます。このコアの部分に身に付けているからこそ、卒業すぐにプロフェッショナルとして歯科医療に従事することを可能にしているのだと思いました。

スウェーデンの優れた教育制度や社会保障制度は、口腔の健康を守ることが何より大事という信念のもとに成り立っていると感じました。この信念を国民が理解し、当たり前のこととして受け入れていることが、スウェーデンが予防先進国である所以だと思います。

研修が終わり本当に充実した日々を振り返り感じたのは、スウェーデンのマルメという地で学び、体験し、感じたことは私の今後の衛生士としての道筋が明確になったということです。『口腔の健康を守ること』。これが、私が衛生士としてやるべき責務です。私が進んできた道は間違っていなかったと確信し、これから衛生士として何をすべきか改めて自身と向き合い、考えることができました。同じ志を持つ多くの歯科医師、衛生士の方々と出会い、語り、刺激を受けたことも私にとって大切な宝物になりました。

日本の歯科医療を変えていくのはすぐには難しいかもしれませんが、でも小さな1歩が大きな前進につながると信じています。私ができることは目の前の患者さん一人ひとりと向き合い、口腔の健康の価値をしっかりと伝えていくことだと思います。これからも信念を曲げず、衛生士業務に邁進していこうと決心しました。

本当にマルメ研修に参加してよかったと思います。最後にこの研修を実施するにあたり、ご尽力頂いた方々に感謝いたします。ありがとうございました。